

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 令和3年11月10日

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 事業名  | スポーツ&カルチャーフェスティバル in 小平          |
| 団体名  | 東京 2020 オリンピック・パラリンピック小平市民プロジェクト |
| 担当課名 | 文化スポーツ課                          |
| 事業期間 | 令和3年7月4日～令和3年9月5日                |

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

① 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけに、世代・地域・国籍・文化のちがいを、障がいの有無を超えて、小平に暮らすすべての人に東京 2020 大会を楽しんでいただく機会を創出できた。本事業を通じて生まれた関係性を大会終了後も継続させることで、地域課題である地域コミュニティの活性化が期待される。

② 団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけに設立された団体のため、東京 2020 大会の理念をしっかりと理解し、ダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包摂)を意識しながら事業を行うことができた。その結果、世代・地域・国籍・文化のちがいを、障がいの有無を超えて、小平に暮らすすべての人に東京 2020 大会を楽しんでいただく機会を創出できた。また、団体に所属する一人一人の市民の経験と人脈を最大限に生かし、市民目線で企画・運営したことで、市が単独で実施するより多くの市民に参加していただくことができた。

③ 協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

事業開始時に団体と担当課の双方で互いの使命や理念、事業の目的を共有し、団体が定例会などの機を捉えて常にメンバーにも事業の目的を共有しながら進めていた。その結果、ダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包摂)をしっかりと意識しながら事業を行うことができた。また、定期的に行う実行委員会やチームミーティングに参加することで、適切な協議、意見交換の機会があり、十分に話し合いながら事業を進めることができた。

④ 改善提案がありますか。

特にありません。

自由記載欄

市が単独で行うより、市民と協働して行うほうが効率的な事業は数多くあるため、今後も職員に対して協働の意識を醸成するための研修を行うとともに、協働を経験できる部署に多くの職員が配置される必要があると考える。